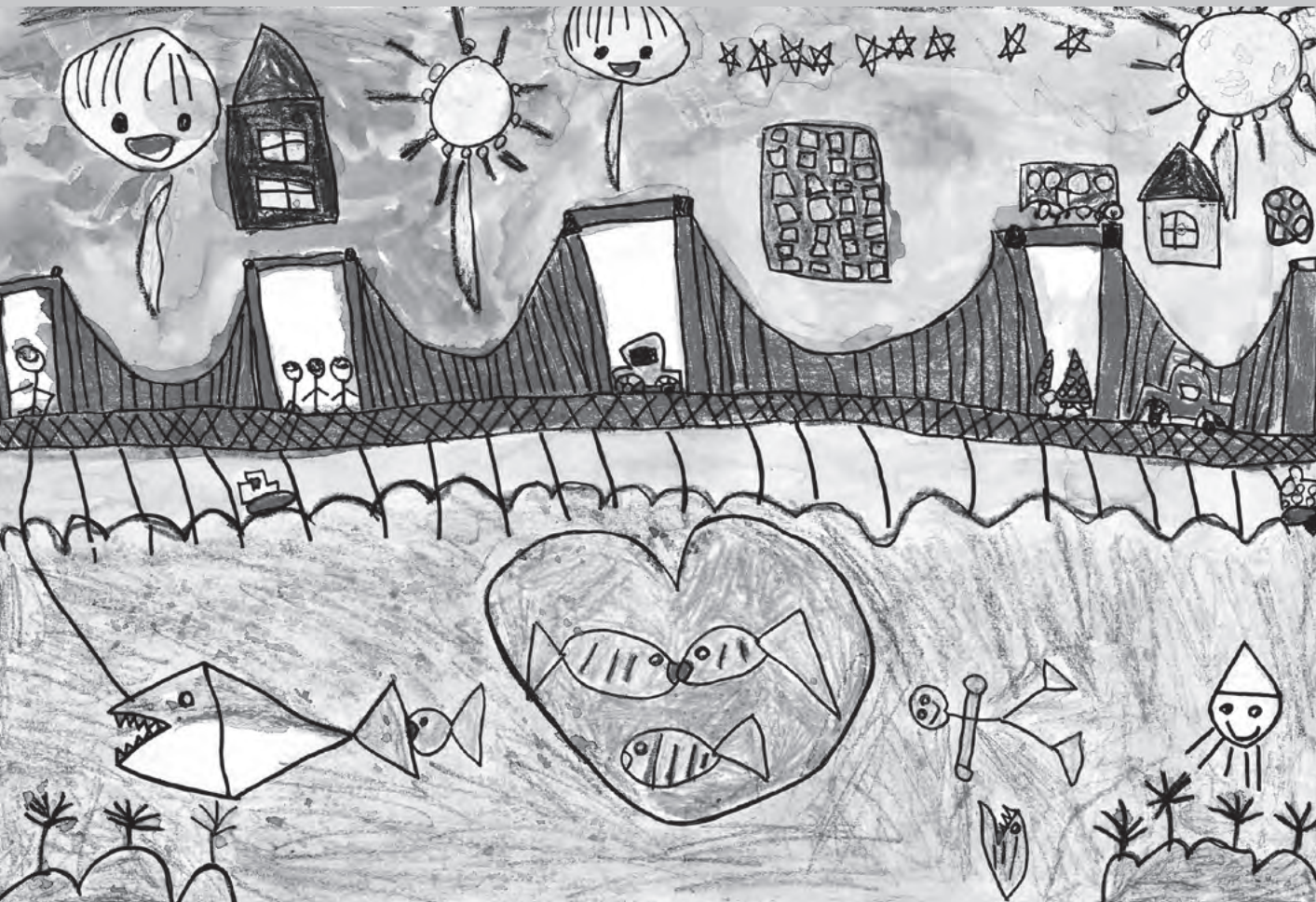


保育北九州

令和5年4月1日
発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話 (093)661-2153番
発行人 酒 井 光 義
編集人 西 敏 昭

2023 211



〈提供 戸畑支部〉

若戸大橋60周年

(5歳児の作品)

表紙	1
第7回 九州保育三団体青年部協議会研修会 北九州大会	2
(公社)北九州市私立保育連盟 青年会議 承認30周年記念式典	3
仲間たち	4～5
研修・一期一会	6
元気のもと	7
雑感・編集後記	8



は～るよ こい♪

(5歳児の作品)

雑感 母は強し!

私の母は、手先が器用で几帳面。和裁、洋裁はお手の物。何事もテキパキとこなしながらも丁寧な仕事をする人で、子どもの頃から尊敬のまなざしで見えていました。また、父母ともにポジティブ思考で「ピンチはチャンス」「人生は楽しまないと！」が口癖でした。悩みを相談すると「悩むということは考えているということ。いろいろな案が見つかるチャンス」「模索したこと(その経験)は後で必ず活きてくる」など、母の前向きな言葉に随分助けられたものでした。

私が保育士になってからも助けてもらってばかり。ままごとコーナーのエプロン、三角巾、布団セット、子どもの帽子入れや食事コーナーの目隠しカーテンなど作ってもらったものは数知れず…。ですが全部手を貸すのではなく、一通り縫い方を見せてと「あとは自分でしなさい。」と決まって言われるのでした。経験することが大事」「わからなければ聞きなさい」と言われ、開き直って黙々と裁縫に取り組んだことを思い出します。

そんな母が2年前から転倒するこ

とが増え、左足に違和感があると訴えるようになりました。5年前に仕事をやめたので筋力が落ちたのかと思いましたが、1年前に「パーキンソン病」と診断されました。新薬も多く緊急性の低い病気であるとのことですが、母はシヨックを隠し切れない様子。しばらくの間「なぜ私が…。」どうせ治らない

…。」と投げやりな言葉が増え、ため息をつくことが多くなりました。リハビリを休みがちになることもあり、左足の硬直は日に日に進んでいきました。今までない弱気な母の姿に、私たち家族も戸惑いながら介護する日が続きま

した。

ある日、母から衣替えを手伝ってほしいと言われました。母の上着やズボンを1枚1枚手に取って整理していると、母がボツリ。「そのズボンは足が良くなったら履くからね、捨てないでよ。」「その上着は旅行に行く時に着るから置いててね。」と。左足の硬直が日々増し、その状態にイライラし「どんどん悪くなる…。」と弱気な言葉を吐いていた母でしたが、本心はまだあきらめてはいなかったのです。久しぶりに母の前向きな言葉や気持ちに触れ、どうしようもなく胸が熱くなりました。海外旅行が好きだった母に思わず「またイタリアに行きたいんやろ？」と聞くと「イタリア…いいねえ。最高やった。また行こうかね。」いろいろな考えても仕方ない！リハビリ頑張ろうかね。」と笑って答えてくれました。やつぱり、すごいよ、強いね、お母さん。そんな母にまた元氣をもらいました。

予期せぬこの現実を自分なりに受けとめ、少しでも前向きに生きていこうとしている母を、これからも側で応援していきたいと思います。

深町どんぐりのもり保育所 藤田 淳子

編集後記 — 誇り —

朝の連続テレビ小説「舞いあがれ！」を皆さんもご覧になりましたか。作者は桑原亮子、脚本は嶋田うれ葉と佃良太、二人の脚本協力。物語のヒロインは、岩倉舞、空とパイロットにあこがれ、ものづくりの町、東大阪と自然豊かな長崎・五島列島でのさまざまな人との絆を育みながら、先代より受け継いだネジ工場に対する父親の誇りを通して、ものづくりに目覚めてゆき、ネジ工場の営業として奮闘しつつ町工場同士をつなげる会社を企業し挫折と再生を描くストーリーです。そこには小さい頃に見たネジに対する誇りを持つ父親の存在があったのではないのでしょうか。

以前お参りで自宅に伺った折、お勤めが済み、お茶を頂きながら話していると、部屋の鴨居に額縁が掛かっており、勤続50年と書かれていました。尋ねてみると会社一筋の人で永年の職人としての仕

事が認められ、会社からの感謝状と金一封を頂きましたと誇らしげに話してくれました。私たちの保育の仕事にも常に責任と緊張感があります。日常的に子どもが安心、安全に過ごせるように気を配り、子どもの個々の発達を見守っています。子どもは日々変化します。できなかったことができるようになり、子どもどうして自然と人間関係を築き、成長していきます。そこには、努力や責任があり、子どもたちが成長していくという結果があります。

誇りは身に付けるのではなく、自然に身に付くものだと思います。保育の中で、常に創意工夫し自分の仕事に誇りをもって日々子どもたちと関わっていくことが大事ではないでしょうか。

子どもは、未来に向かって伸びていく「希望の光」なのです。

「保育北九州」編集長 西 敏 昭

第7回九州保育三団体青年部協議会研修会 北九州大会

令和4年11月21日(月)・22日(火)の両日、アートホテル小倉ニュータガワにおいて、九州保育三団体青年部協議会研修会北九州大会が開催されました。大会テーマに「未来への羅針盤 in 北九州2022」サブタイトルに「つながり」の輪ウエルビーイングの実現を目指して」と題して、九州各県の青年保育者に留まらず、全国から215名にご参加頂き研修会及び情報交換会が行われました。

第一日目

開会式

開会式では、最初に主催者挨拶で(公社)全国私立保育連盟青年会議九州ブロック代表 帯田英児氏(鹿児島県)がコロナ禍で3年間延期された今大会が無事に開催でき、九州保育三団体青年部協議会研修会の火が消えなかった事を嬉しく思います。と挨拶されました。

次に、北九州大会実行委員長 橘原義晃氏がウエルビーイングとは、幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態をいいます。この未曾有の災禍にこそ、職員同士の健全な関係が、子どもたちへ・保護者へ、そ



して地域の方々へと「つながり」の連鎖が波及していく事を再確認し、「人の輪」の大切さを今一度考えていきたい

いと思っております。と大会テーマの説明を加えた挨拶をされました。

次に北九州市子ども家庭局局长 清田啓子様による市長からの祝辞の代読、日本保育協会九州地区連合会会長 古賀一郎様(福岡市)の祝辞、(社福)日本保育協会青年部部長 新保雄希様(石川県)の祝辞、(公社)全国私立保育連盟青年会議会長 横山和明様(宮崎県)から祝辞を頂きました。

分科会

第一分科会では弁護士法人かなめ代表 弁護士 畑山浩俊氏による「幼保事業者が押さえておくべきモンスターペアレント対応策3つのポイント」という演題でご講演頂きました。保育士が安心して働けるように法人としての対応の仕方を確立しなければならぬ事など、過去の判例を基に説明して頂きました。

第二分科会では東京未来大学こども心理学部教授 藤後悦子氏による「人となりがり社会をつなぐ、保育力ウンセリングと保育ソーシャルワーク」という演題でご講演頂きました。保護者支援の難しさ、地域社会資源を活用して社会で子育てを行う大切さを考えさせられた研修会となりました。

第三分科会では(一社)日本ほめる

達人協会特別認定講師・トライル代表取締役社長 三岡大氏による「風通しの良い組織づくりはまず、ほめ方を変えていこう!」という演題でご講演頂きました。見ず知らずの隣の方と褒め合いをしたりと、ほめる事の難しさを感じ、気付けば隣の方と仲良しになったりと不思議な雰囲気での研修会でした。

情報交換会

一日目の研修会終了後には、九州及び全国の参加者と情報交換会を行いました。久しぶりに会う青年保育者同士の熱い友情を再確認し、和気藹々とした雰囲気の中で、有意義な夕べとなりました。

第二日目

記念講演

記念講演では北九州市門司区出身のつるの剛士氏より、「つるの剛士流子育て論」という演題でご講演頂きました。ご自身の生い立ちと5人の子育ての経験を踏まえた子育ての成功談や失敗談など面白おかしくお話し頂きました。最後に自身が保育士資格を取得し、保育の発信者としてお役に立てればと今後の目標を話され締めくくられました。



閉会式

閉会式では主催者を代表して日本

保育協会九州地区連合会青年部代表 大城卓子氏(沖縄県)が挨拶され、また、開催地を代表して(公社)北九州市私立保育連盟青年会議会長 岡本一氏がお礼の挨拶をされました。

また次期開催地の佐賀県大会実行委員長 高田昌典氏が令和5年度第8回九州保育三団体青年部協議会研修会佐賀県大会のPRをされました。

最後に北九州大会実行委員 伊賀良昌宏氏による閉会宣言ですべてのプログラムを終了しました。

(公社)北九州市私立保育連盟 青年会議 承認30周年記念式典

令和5年2月18日(土)リーガロイヤルホテル小倉において、(公社)北九州市私立保育連盟青年会議承認30周年記念式典が開催されました。

最初に主催者挨拶として(公社)北九州市私立保育連盟会長 岡村信久氏より青年会議へ激励の言葉と共にお集まりくださった皆様へ感謝の言葉がありました。

次に青年会議会長 岡本一氏より11

月の九州保育三団体青年部協議会研修会に引き続きの開催となり、若手会員の頑張りにより2つの会が開催できた事に感謝の言葉がありました。

続いて、北九州市議会議長 鷹木研一郎様、北九州市子ども家庭局局长 清田啓子様、(一社)北九州市保育所連盟会長 酒井光義様よりお祝いの言葉を頂きました。

研修会



研修会では弁護士法人かなめ代表 弁護士 畑山浩俊氏による「限度を超えた保護者からの要求への対応」という演題でご講演頂きました。今年起きた不適切な保育の事例を取り上げ、どのように対応しなければならぬか。また、初期対応の大切さを勉強しました。

次に参議院議員内閣府大臣政務官 自見はなこ氏より、「こども家庭庁の目指すところ」という演題でご講演頂きました。こども家庭庁が出来るまでの流れと、これから目指す「こどもまんなか社会」への実現を約束され講演を締めくくられました。

情報交換会

情報交換会では青年部会二代目部長 橘原智司氏の乾杯の挨拶の中で昭和54年の第22回全国私立保育園研究大会を契機に発足した青年部会の当時の苦労話があり、昔を懐かしみました。そして歴代部長からの挨拶があり、久しぶりに集う仲間と楽しいひと時を共に過ごした後に、青年会議十代目会長 橘原義晃氏が万歳三唱を行いました。最後に、令和5年度より十二代目会長として就任することとなった宮原健輔氏による閉会の挨拶の中で、青年会議諸先輩方の思いを引き継ぎ一丸となって頑張っていく事を決意し会を締めくくりました。





今回は社会福祉法人鳳雲会北九州乳児院を訪問しました。乳児院は全国に146か所、県内に6か所あり、北九州乳児院は市内唯一の児童福祉施設です。

平成26年5月にみのり保育園と合築で建替えをされています。院長の西村久美子先生にお話を伺いました。

Q 乳児院はどのようなところですか？

児童福祉法第37条に定められた入所型の児童福祉施設です。ご家庭の様々な事情でお子さんと過ごすことが困難になった時、0歳から概ね2歳（必要により就学前）までのお子さんをお預



かりし多職種の専門スタッフにより24時間365日見守られながら生活を送る施設です。

Q 昭和47年2月1日に設立されていますが、経緯やエピソードがありましたら教えてください。

設立のお話の前に、なくてはならないのが同法人「みのり保育園」です。まずはここからお話しさせていただきます。

社会福祉法人鳳雲会初代理事長、西村法昭先生は行橋市浄土真宗本願寺派のお寺の次男として生まれました。

戦時中は刑務所教戒師として韓国にわたり受刑者の更生にあたっていたそうです。戦後は家族とともにこの小倉の地に引き上げ、「真照寺」を興した後、「仮釈放になっても再び罪を犯して刑務所に戻って来る。」「これじゃいかん、やはり三歳の童子のうちから仏に手を合わせられるように育てなければ。」「と昭和21年オルガン1台と紙芝居だけの託児施設「みのり保育園」を開設しました。

それから20年近く経った昭和42年、43年頃、当時の福岡県養護施設協議会会長平田清正氏より「今の乳児院は親の離婚や受刑、蒸発、死別などが主たる入所理由になっているが、これからは育児放棄や虐待が加わり、乳児院の果たす役割は更に大きなものになるだろう。」「話を伺い、昭和47年2月1日に北九州乳児院が誕生したと聞いています。

Q 利用定員と在籍人数は？

定員は33人です。現在は28人の子どもたちがいます。

Q 入所はどこに相談したらできますか？

北九州市子ども総合センター（児童相談所）と各区役所の子ども家庭相談コーナーに相談ください。ご家族と子どもさん双方に一番良いとされる提案をいただけるかと思います。

費用は主に公費で賄われますが、所得や世帯状況によっては一部負担もあります。

Q 専門スタッフや人数、勤務体制など教えてください。

保育士、看護師、栄養士、調理員、心理士、家庭支援専門相談員、個別対応職員、里親専門相談員、その他パート、代替の総勢40数名と嘱託医です。専門スタッフがワンチームとなって子どもたちの養育、健康、情緒面に携わり、また、子どもと離れて暮らすことを余儀なくされている保護者の心理的ケアや育児相談、養育指導なども行っています。

勤務は日勤、夜勤が24時間のメインとなり、それをサポートする早出、遅出があります。一番の特徴は、子どもたち一人一人に担当職員がつくことです。保育士や心理士、看護師とともに、

情緒面や発達、病気や予防接種等、入所時から退所時まで一貫して1対1の担当をします。子どもと担当職員の間には他の職員にはない愛着関係が生まれ育ちます。いわば、院内のおかあさんに最も近い存在です。

Q 毎日をどのように過ごしていますか？

スキンシップが一番です。午前、午後の遊びの時間にはプレイルームやウッドデッキで遊んだり、近くの公園に散歩に行ったりします。車に乗っ



て到津の森公園や山田緑地、グリーンパーク、いちご狩りなどに出かけ家庭とかわらない経験にも力を注いでいます。絵本も大好きで時間を作っては読んでいます。

園舎前の母体でありますお寺（真照寺）本堂にて、ご縁によっていただいた命を、家族と一緒に生まれて初めてお寺へお参りする「初参式」の行事も行っています。

Q やりがいやうれしかったこと、また苦労した点など

乳児院は24時間365日昼夜を問わず緊急入所があります。入所となれば子どもは家族と離れ、全く知らない環境のもとへ来るのですから、不安でいっぱいの子、入所前から大泣きしている子、職員にしがみついたり離れようとしない子と様々です。そういった姿を見ると私たちもギョッと胸を締め付けられます。

また、出会いもあれば別れもあります。別れ（退所）には「家庭引き取り」「児童養護施設への措置変更」「里親委託」と大きく3つあります。担当職員は子どもたちと小さなころから深く関わり愛情をそそいでいた分、別れは辛



くしばらくはぼつかり心に穴が開いたようになってしまいます。

逆にやりがいやうれしかったお話は尽きません。生まれたての新生児からの入所もありますので担当職員の喜びはひとしおで「私を見てニッコリした」「あ、あつて声が出た」「おもちゃを握った」「寝返りができた」など話せば限りなく、ちよつとした仕草や成長に母親のように喜んでいきます。

Q 最後にひとこと

保育園に通っている子どもたちも出産や家族の入院、出張等で困った折り

にはショートステイとして最大7日間の利用ができます。ご相談を受けた際は乳児院という施設があることをお伝えいただけたら幸いです。

全国乳児福祉協議会ではDVD「笑顔で働く理由」を製作し、ダイジェスト版をYouTubeに掲載しています。どなたでもご覧いただけます。ご興味のある方はQRコードよりご覧ください。

設立から半世紀が経とうとしている今なお、求められる子どもたちの生活の場です。乳児院では一人一人の生命をかがえのまない尊いものとして守り、幸せを願って全力で寄り添っていらつしやいました。携わる方々のやさしさと強さを感じました。

お忙しい中、お話をいただいております。ありがとうございます。

『笑顔で働く理由』ダイジェスト版

YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=rpot8mtp0hE>



北九州乳児院ホームページ

<https://www.ho-unkai.jp>



研修・一期一会

令和5年2月2日に「令和4年度保育所（園）職員総合研修大会」にオンラインにて参加させていただきました。まず初めに、福岡県保育協議会副会長として、（一社）北九州市保育所連盟酒井光義会長が開会の辞を述べられました。そして、福岡県知事の代読で大曲副知事がご挨拶されました。次代を担う人材の育成、保育人材の確保、研修の充実、処遇の要望など、未来を担う子どもたちの健やかな成長に向けて、子育てを支援していく社会作りを進めていきたいとお話がありました。

実践発表が3園から行われました。あけぼの保育園の発表では、「子どもの成長と発見を共有するおさんぽマップ作り」というテーマでお話しが



ありました。コロナの感染対策を行う中でどのような取り組みができるかということで、年長児のねらいを『相手の話を聞き自分の思いをきちんと言葉にすることが出来るようになる』と決め、活動に取り組まれています。また園外保育を通して、計画・実行・振り返りを子どもたち主体で行うため、おさんぽマップの作成にも取り組まれているとのことでした。また、発表会を通して自分の意見を人前で伝えることができるようになっていくということです。

ほっぺるランド六本松の発表では株式会社

社が運営する保育園と共通理解と自己評価」というテーマで発表されました。毎朝の出欠確認、共有ノートの活

用、行事前の昼礼や回覧などで共通理解を深めています。また、本社からの毎月の課題を行うことで意見を出し合ったり考える機会を設けることができ、対応の仕方や共通理解を深め、職員のモチベーションアップにも繋がっているとのことでした。

朝倉郡保育協会保育士会の発表では筑前町と東峰村に8園あり「子どもの主体性を大切にしたい保育実践」というテーマで豪雨災害に遭いながらの5年間の取り組みの発表がありました。実践報告書の書き方に写真を取り入れることで保育内容についての話題が増えたり、つぶやきを語ることができ、そのつぶやきからきっかけ作りができたという良い面が見え、取り組みが素晴らしいと思いました。全職員での保育指針の研修、環境設定の研修や保育士の仕事の魅力発信等を今後の課題とされています。同様に自園でも努めていきたいと思っています。

記念講演では、シンガーソングライターの新沢としひこ氏が「コロナに負けない歌の力」という演題で、コンサート形式の講演会をしてくださいました。80分のなかで十数

曲の生歌を披露してくださり、癒しの空間となりました。明るいパワーのある歌声に元気をもらい、からだ全体で楽しめる曲、卒園ソング、掛け合いの曲など、楽しませていただきました。歌が持つ力は偉大だなと感じました。

この学びを大切にしてください。未来ある子どもたちにより添いながら、一人一人の思いを大切に、保育の質を高めていけるよう努めていきたいと思っています。

さわやかあだちのもり保育園
橋原 ますみ

寄付

（一社）北九州市保育所連盟
（公社）北九州市私立保育連盟

へご寄付

社会福祉法人のぞみ会理事長 故 藤富孝雄 様より保育事業発展のためご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますとともに心から感謝申し上げます。



推し活

気分が滅入っている時、なんだか淋しい、悲しい気持ちになる時、元気が出ない時…。

そんな時、心が元気になることって何だろう。大切な人や家族と過ごす。大好きな場所へ行く。美味しいものを食べる。お買い物へ出掛ける等々たくさん思いつきますが、そんな私の最大の「元気のもと」は友人との「推し活!!」はじめて大好きなアイドルを大きな会場で生で見た時の「なんてキラキラした存在なんだろう」と感動して一緒に居た友人との場で涙し、立ち尽くしたのを覚えています。

いつもと変わらない景色を見ながら出勤し様々な業務をこなす通勤。マスクの下は化粧つ気なく鏡に映った自分の姿を見て「このまま年を重ねていくのだろうか…」と切なく

思ってしまうそんな毎日でも、「推し」に会える日が近づいて来ると心がざわつきはじめ友人と様々な計画を話し合い、その日を迎えるために「今日も1日頑張ろう!」とやる気がみなぎり不思議と力が湧き出てくるのです。まるで何かやる気や元気の出る魔法でもかけられているかのように。テレビに映る「推し」は自分たちと同年齢ながらも弾ける笑顔で歌い踊っている。そんな姿を見ていると自然と疲れ果てた表情もニコニコとやわらかくなり心が潤ってくるのを実感します。そんなアイドルも私たちと同じ人間。やる気、元気の出ない日もあるだろう。そんな姿を1ミリも見せることなくプロとして日本中に元気を届け続ける姿には感謝の思いでいっぱいで見習いたいです。「推し」に会った後は笑顔があふれ「明日からも頑張ろうね♡」が私と友人の合言葉!となっています。

皆さんの心を元気にしてくれる、笑顔にしてくれるものは何ですか?

旅行

私の「元気のもと」は、旅行です。

コロナ禍になり、以前のように旅行が難しい日々が続いていましたが、少しずつ緩和され、しっかりと感染対策をしながら行かせて頂いています。

旅行は、普段の生活

では体験・経験できないことを味わうことができます。その中で、私の旅行の醍醐味は、好きなアーティストのコンサートや舞台を見たり、地域の食や文化に触れることです。特にその地域の食材を使った郷土料理やご当地グルメを食べたり、観光名所に行くと、そこでしか感じることでできない物を五感で味わうことができ、沢山のエネルギーをもらうことで、私の心の健康や笑顔に繋がっているなと感じます。

更には旅先での出会いで友人関係も広がり、旅先で友人と会うことも増え、様々



な楽しさを感じています。

また旅先では、非日常的な体験をする事ができますが、ふとした時には「これ保育に取り入れられるかも!」「保育室に飾れるな」など、園児のことを思い出し、旅先でインプットした物を仕事でアウトプットし、この楽しさがあるから仕事も頑張れるなと思っています。

これからも趣味や保育士としての仕事を大切にしながら、やりがいのあるこの仕事で私らしい楽しさを見つけ、充実した日々を送りたいです。

